原告の決意その２

（原告申し込み時の記載事項より抜粋）

・安全な生活、自然を守るために市民ひとり一人が声をあげていく必要があると思います。
（大分市　T）

・５月末、熊本市でのボランテイアの帰りに益城町にも立ち寄りました。熊本市内に住み益城町にボランテイアで通っている友人から「見ておいた方がいい」と勧められたからです。雨のなかで見た益城町、言葉がありませんでした。地面が動いており、自然の大きなエネルギー、私たち人間の抗うことのできないエネルギーを実感しました。人間は自然のなかで生かされている。人間の力で制御できない原発は廃止すべきです。再稼働は絶対に許せません。私たちは微力ですが無力ではない。原告に加わらせて下さい　（大分市　O）

・孫のためには一歩も引くことはできません。毎日のように続く地震のゆれを感じながら原発の無事を祈る　なんて…　誰も責任を取らない国ニッポン。ほんとに情けない大人たちです。　（大分市　M）

・東北大震災であれ程の大きな原発事故を起こし、住民の方が住むことも出来ず、そしていまだに廃炉のしっかりした道筋もない状態が続く中、政府はどうして再稼働等出来るのか理解できません。安価などころか、危険で膨大な費用がかかる原発なのに。目先の電気代より、もっと将来の事、子供たちの未来の時代のこと等考えて、勇気ある政策転換をしてもらいたいと思います。
（大分市　O）

・チェルノブイリの事故以来、いつか日本でもと毎日のテレビニュースから目が離せない３０年でした。子ども達の未来、元気で大人になれる日が来るのかと心配しながらの日々、子ども達は母親になりました。そして３.１１。今、４人の孫に恵まれ、その未来を考えると不安から解放される日はもっと先と思われます。この運動にささやかながら応援いたします。　（日田市　I）

・福島原発事故から五年が経つ。未だに多数の住人が故郷を追われ放射線障害に怯えながらの生活を余儀なくされている。それにもかかわらず、事故の責任は誰一人問われることもなく、事故の解明も調査・検証も曖昧なままである。国民の命と暮らしを真剣に守るために、我が地震列島から原発を無くさねばならないと思っている。　（杵築市　N）

・　時間的、空間的に人がコントロールできない危険なもの（原発）を気安く使うということが信じられません。福島のことをどう理解しているのか。推進する人たちはあまりに鈍感！！分かっている人が止めるために努力しないといけないですね！よろしく。（P,S）福島で、新築した住宅の下に（放射能）汚染物が埋められていたとニュースがありましたが、全くひどい話ですね！！　（大分市　H）

・充分な環境下で生活してきたとは思っていませんでしたが、それなりに安心して暮らしてきました。しかし、福島の原発事故以後は地震大国の国民として、伊方原発から約７０kmに暮らす大分市民として、今を生きる自分だけでなく将来にわたって伊方原発周辺住民の生命と暮らしの危機を大きく意識せざるをえません。又、原発立地自治体に対する政府の対応と沖縄の米軍基地問題に対する政府の対応の、真逆という言葉では言い尽くせない、その大きすぎるギャップに強い憤りをおぼえています。子と孫は大分には住んでいませんが、彼らの将来のためにも皆さんと力を合わせて闘い続けたいと思っています。一喜一憂するのは人間の常ですが、失望することを拒否する精神を大事にしながら頑張りましょう。　（大分市　I）

・原発に頼らない生活をする、原発の廃棄物をどうするのか？処分方法もはっきりしないでダラダラと稼働している、人間はバカである破滅の道をすすんでいる、子供に申し訳ない。　（大分市　M）

・原発には反対していますが、今まで長期間社会に云いたいことを云ってこなかったので、体力があるうちにお手伝いできたらと参加することにしました。良く分かっていない高齢者ですがよろしくお願い致します。　（大分市　K）

・９０歳のあちこち故障のある老人ですので、外に出向くことはできませんが「原発阻止」の固い気持ちは持ち続けています。　（別府市　N）

・やっとここまでこぎつけた、という気持ちです。これほど現実（東日本大震災後の東電、政府、マスコミ…現地の人々の生活）を見ながら、我が生活環境に気付き、恐れそれぞれの判断・行動に出ると思っていたが、それほど深刻に受け止められていないと思う。今立ち上がらなくて、いつ？という思いだ。いのちに関わることなのでなおさら…だ。
（別府市　H）

・原子力ムラ利権と核兵器製造のポテンシャル維持のための原発は必要ありません。　（宇佐市　H）

・福島までは何も知りませんでした。でもあんな現実を見てまだ続けることは決して許されません。“想定”など、人間のできることではありません。
（大分市　S）

・大分市民として当然の行動を取らせて頂いた思いです。今後も注目し続けます。　（大分市　W）

・「原発はよくないよな」という漠然とした思いを持っていただけで、はっきり「反対！やめよう！」の取り組みをしてこなかったことを悔いています。せめて「原発はやめる」ということを今の日本の大人の責任で決めてから死にたい。　（大分市　T）

・東京電力の原発事故は私たち人間の生きる生存権を奪うものであったことが明らかになりました。
　にもかかわらず政府・経営者は原発による電力をと考えています。私たちが声を上げることで阻止に向けた取り組みが進んでいきます。伊方原発は私たちの生活圏の中にあります。事故が起こる前に止めなければなりません。　（宇佐市　N）

・伊方原発３号機の再稼働にあたり事故が起きたらどうなるのか自分の目で確かめたいと「被災地を訪ねる３日間」に参加してきました。原発に最初から反対し続けた宝鏡寺の早川さんの話の中に「百聞・百見・百考・一行」本堂の貼り紙に「原発大事故こんども日本」と書いてありました。だまっていることは賛成したことと同じではないかと思い福島の現状を友人や知人に伝えたいと思います。
（大分市　O）

応援団も頑張っています

応援団共同代表　奥田富美子さん

「この国は原発事故を起こしても原発が止まらない」これは、今年７月逝去された藤田祐幸さんが２０１１年３月東日本大震災で東京電力第一原子力発電３号機の爆発で深刻な放射能汚染を引き起こしても尚、国の方針が変わらない様子に嘆き、吐き出された言葉です。２０１１年３月１１日から数か月後だったと思います。
１９７９年スリーマイル島での事故をきっかけに反原発運動を３０数年間続けてこられた藤田さん。お話を聞くたびに緊張感や絶望感を抱き、この世に４人子どもを生み出した私は愚か者ではなかろうかとも思ったものです。
これまで多くの先輩方ががんばってこられても止められなかった、止まらなかった原発。熊本・大分地震から「伊方原発とめよう!!」という気運の盛り上がる県民とともに私たちの手で止めましょう。
再稼働を絶対に許さない!!私は応援団の一員として「伊方原発をとめる裁判」を応援します。今を生きる大人の責任として子どもたちに「原発のない社会」をリレーしましょう。

＊集会のときに、明るく元気にてきぱきと司会進行役をしていますので、知っている方も多いと思います。宇都宮陽子さん（裁判ニュースＮｏ１で紹介）とともに応援団共同代表をつとめています。臼杵市在住で、市議会議員として大活躍中です。

弁護団に地元大分、全国から計４９名が結集

その内訳は大分県内の徳田靖之、岡村正淳共同代表はじめ弁護士計３４名、そして河合弘之弁護士（脱原発弁護団全国連絡会）とそのスタッフ（甫守、大川弁護士…）、井戸謙一弁護士（滋賀県弁護士会）、さらに薦田伸夫弁護士（松山訴訟弁護団）…です。全国から注目を浴びている裁判であり、全国から英知を結集していただく、井戸弁護士のように自ら馳せ参じてきていただきました。何としてでも勝たねばならない裁判であることの表れです。